

第5章 路線再編の内容

5-1 検討経緯

2018年度（平成30年度）の検討対象路線について、沿線市町村、交通事業者及び県による個別協議を次のとおり各3回開催した。

<個別協議の概要>

	検討対象路線	個別協議概要		
		【第1回】 現状・課題整理、路線再編の方向性の検討	【第2回】 再編による効果の検討	【第3回】 再編案の整理・とりまとめ
1	①弘前黒石線 ②大川原線	H30.11.5	H30.12.5	H30.12.26
2	③深浦線	H30.10.29	H30.12.5	H30.12.26
3	④十和田市線	H30.11.6	H30.11.30	H30.12.21
4	⑤十和田線(法量)	H30.11.2	H30.11.26	H30.12.21
5	⑥十和田三沢線	H30.10.24	H30.11.26	H30.12.21
6	⑦泊線	H30.10.30	H30.11.20	H30.12.19
7	⑧下北線	H30.10.11	H30.11.9	H30.12.12
8	⑨十三線(十三下前) ⑩十三線(イオン柏) ⑪出来島線	H30.10.29	五所川原市が中心となり協議していくことを確認したため終了	

5-2 再編の内容

個別協議の結果取りまとめられた再編案は次のとおりである。市町村、交通事業者及び県は、「実施時期」を目標として順次実行していくとともに、「引き続き検討が必要な事項」の実現に向けて継続して検討・協議するほか、青森県バス交通等対策協議会地域分科会において、地域住民や関係機関とともに進捗状況等を点検しながら、着実な推進を図る。

路線名：弘前黒石線(関連路線：大川原線)【弘南バス(株)】

■路線の概要

●運行概要（弘前黒石線）			
起点・終点	弘前バスターミナル・黒石駅前	主たる経由地	日沼、田舎館
沿線市町村	弘前市、黒石市、平川市、田舎館村		
運行日・運行本数（往復平均）	毎日・月～金：8.5本、土日：8.5本		
関連する公共交通	JR 奥羽本線（東日本旅客鉄道(株)）、黒石線（弘南鉄道(株)）、大川原線（弘南バス(株)）、弘前市内循環 100 円バス（弘前市）、ぷらっと号（黒石市）、デマンド型乗り合いタクシー尾上日沼線（平川市）		

●輸送実績							
年度	実績値			補助金額（千円）			
	平均乗車密度	運行回数	輸送量	国	県	市町村	総額
H27	2.4	8.5	20.4	2,855.1	2,855.1	6,801.0	12,511.2
H28	2.2	8.6	18.9	2,996.1	2,996.1	8,062.0	14,054.2
H29	2.0	8.6	17.2	2,884.6	2,884.6	7,579.0	13,348.2

●運行概要（大川原線）			
起点・終点	弘前バスターミナル・大川原温泉	主たる経由地	日沼、田舎館、黒石駅前、黒石中学校前
沿線市町村	弘前市、黒石市、平川市、田舎館村		
運行日・運行本数（往復運行）	毎日・月～金：3本、土日：3本		
関連する公共交通	JR 奥羽本線（東日本旅客鉄道(株)）、黒石線（弘南鉄道(株)）、弘前黒石線（弘南バス(株)）、弘前市内循環 100 円バス（弘前市）、ぷらっと号（黒石市）、デマンド型乗り合いタクシー尾上日沼線（平川市）		

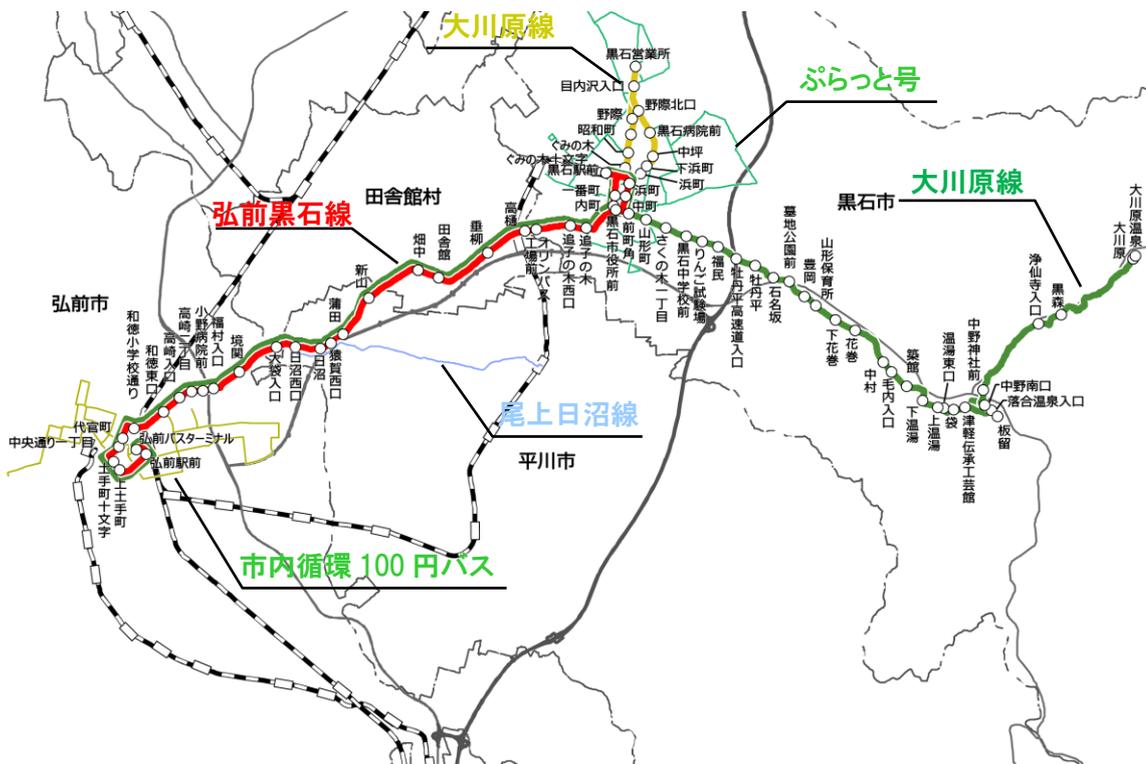
●輸送実績							
年度	実績値			補助金額（千円）			
	平均乗車密度	運行回数	輸送量	国	県	市町村	総額
H27	4.8	2.9	13.9	1,393.1	1,393.1	0	2,786.2
H28	4.4	2.9	12.7	1,809.6	1,809.6	0	3,619.2
H29	3.7	2.9	10.7	0	0	8,657.0	8,657.0



■ 路線の課題						
路線名	弘前黒石線(関連路線:大川原線)	事業者名	弘南バス(株)			
関係市町村	弘前市、黒石市、平川市、田舎館村					
路線の課題	<p><全体的に利用者が少なく、大川原線と経路が重複></p> <p>弘前黒石線は弘前市・黒石市・平川市・田舎館村の複数市村間の移動を支える路線であるが、全体的に利用者が少ない状況にあり、特に平川市・田舎館村付近のバス停での利用者が少ない傾向にある。</p> <p>弘前黒石線の全区間において、大川原線と経路が重複しており、大川原線から弘前黒石線への需要集約に向けた検討が必要となる。</p>					
■ 路線の再編(次頁の運行ルート図を参照)						
再編の内容	<p><大川原線の系統分離及び弘前黒石線への需要集約></p> <p>弘前黒石線と経路が重複する大川原線について、「黒石駅前」を接続拠点として系統を分離し、弘前バスターミナル～黒石駅前間の系統を弘前黒石線に統合することで、大川原線からの需要集約を図る。</p> <p><域内交通の接続性の向上による各地域における移動利便性の向上></p> <p>各地域における移動時の利便性向上のため、弘前黒石線及び大川原線のダイヤに合わせた域内交通(弘前市・黒石市・平川市)のダイヤの見直しにより、接続性の向上を図る。</p>					
実施時期(予定)	2019年10月					
■ 路線の再編前後の比較						
項目	再編後			再編前		
起点・終点	弘前バスターミナル・黒石駅前			弘前バスターミナル・黒石駅前		
主たる経由地	日沼・田舎館			日沼・田舎館		
運行日	毎日			毎日		
運行距離	14.4km			14.4km		
使用車両	中型バス車両			中型バス車両		
事業主体	弘南バス(株)			弘南バス(株)		
事業形態	一般乗合旅客運送(定時定路線)			一般乗合旅客運送(定時定路線)		
■ 年間利用者数(単位:人)						
項目	再編後の想定される効果			現状(2017.10~2018.9)		
年間利用者数	51,324			31,520		
■ 輸送量等						
項目	再編後の想定される効果			現状(2017.10~2018.9)		
路線名	弘前黒石線			弘前黒石線		
平均乗車密度	2.4			1.9		
運行回数	11.5			8.6		
輸送量	27.5			16.3		
■ 補助金額(単位:千円)						
項目	再編後の想定される効果			現状(2017.10~2018.9)		
路線名	弘前黒石線	大川原線	小計	弘前黒石線	大川原線	小計
国	3,735	0	3,735	2,177	0	2,177
県	3,735	0	3,735	2,177	0	2,177
市町村	11,920	6,972	18,892	9,411	11,665	21,076
小計	19,390	6,972	26,362	13,765	11,665	25,430
総額	26,362			25,430		
■ 引き続き検討が必要な事項						
高校の統廃合に伴う対応	2021年度末に予定されている黒石高校・黒石商業高校の閉校及び中南地区統合校による黒石高校の校舎の使用に伴い、大川原地区から弘前市への通学が想定される場合、「黒石駅前」で弘前黒石線に接続する大川原線の増便やダイヤの見直し等による通学手段の確保を図ることが必要。(主体:弘南バス(株)、弘前市、黒石市、平川市、田舎館村)					
系統分離に伴う周知広報	「黒石駅前」での大川原線から弘前黒石線への乗り継ぎに伴う利用方法の案内や、大川原線のダイヤ等の見直しに関する周知・広報を行うことが必要。(主体:弘南バス(株)、弘前市、黒石市、平川市、田舎館村)					

■ 運行ルート図(弘前黒石線)

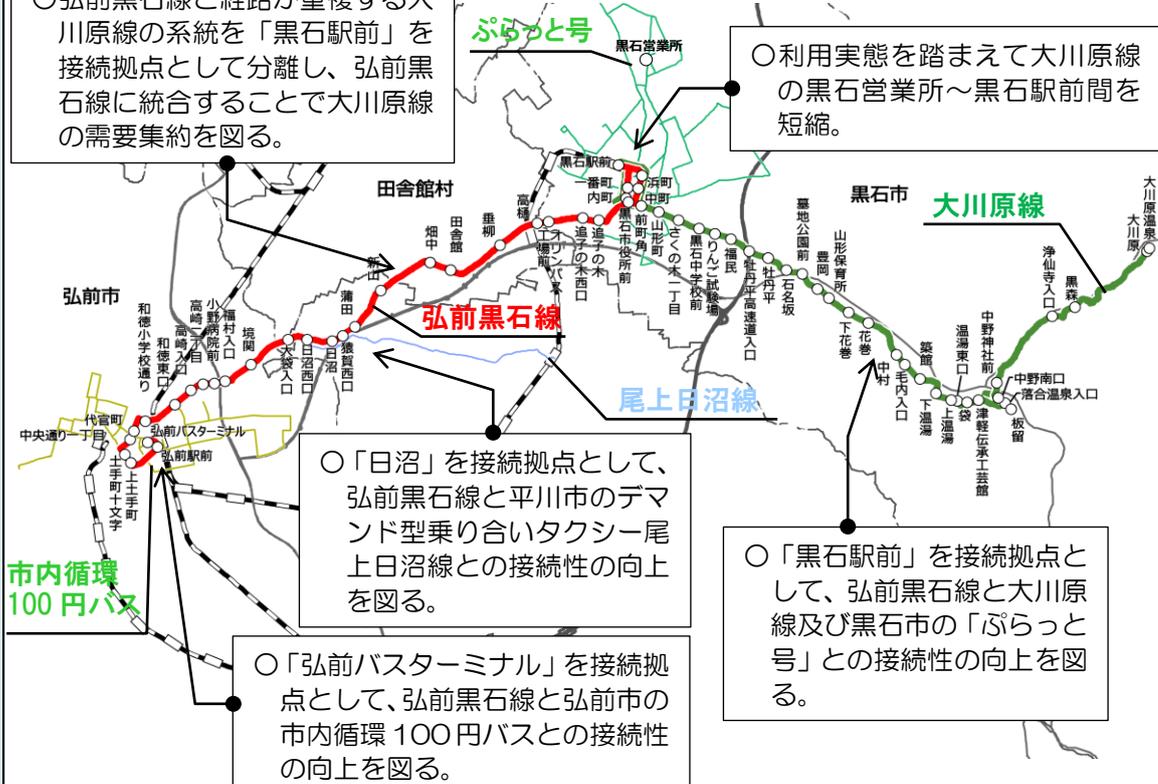
旧



新

○弘前黒石線と経路が重複する大川原線の系統を「黒石駅前」を接続拠点として分離し、弘前黒石線に統合することで大川原線の需要集約を図る。

○利用実態を踏まえて大川原線の黒石営業所～黒石駅前間を短縮。



○「日沼」を接続拠点として、弘前黒石線と平川市のデマンド型乗り合いタクシー尾上日沼線との接続性の向上を図る。

○「黒石駅前」を接続拠点として、弘前黒石線と大川原線及び黒石市の「ぷらっと号」との接続性の向上を図る。

○「弘前バスターミナル」を接続拠点として、弘前黒石線と弘前市の市内循環 100円バスとの接続性の向上を図る。

路線名：深浦線【弘南バス(株)】

■路線の概要

●運行概要							
起点・終点	鱒ヶ沢営業所・弁天	主たる経由地	鱒ヶ沢駅前、赤石駅前、北金ヶ沢、千畳敷、深浦駅前				
沿線市町村	鱒ヶ沢町、深浦町						
運行日・運行本数(往復平均)	毎日・月～金：4本、土日：4本						
関連する公共交通	JR 五能線(東日本旅客鉄道(株))、十二湖線(弘南バス(株))、深浦町内線(弘南バス(株))、あじバス(鱒ヶ沢町)						
その他の移動手段	温泉施設ゆとりバス(深浦町)、患者輸送バス(深浦町)、小・中学校スクールバス(深浦町)						
●輸送実績							
年度	実績値			補助金額(千円)			
	平均乗車密度	運行回数	輸送量	国	県	市町村	総額
H27	4.8	3.9	18.7	8,116.3	8,116.3	0	16,232.6
H28	4.6	3.9	17.9	6,533.4	6,533.4	5,613.0	18,679.8
H29	4.3	3.9	16.7	6,267.1	6,267.1	4,798.0	17,322.2

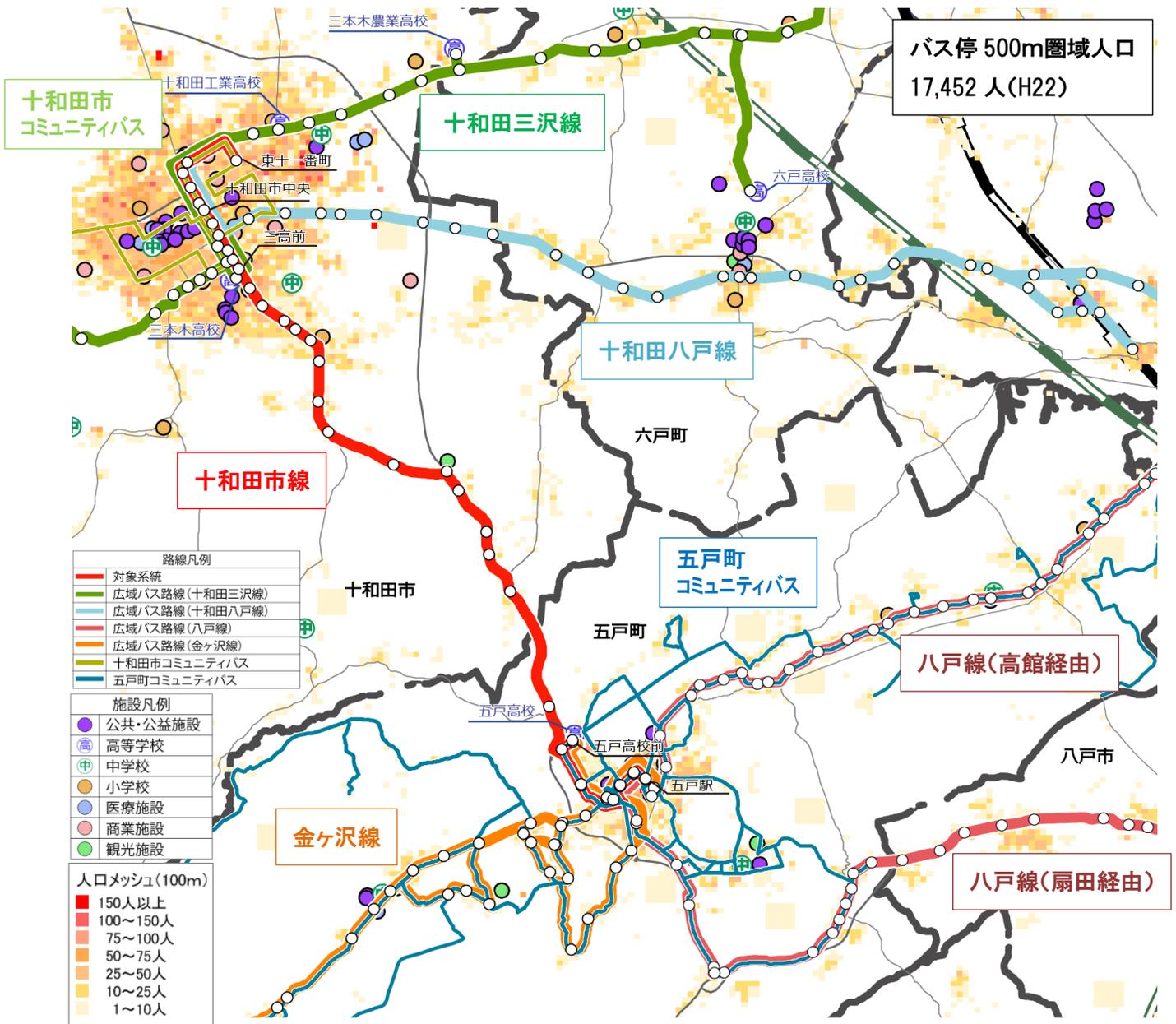


■ 路線の課題			
路線名	深浦線	事業者名	弘南バス(株)
関係市町村	鯉ヶ沢町、深浦町		
路線の課題	<p>< 深浦町内での利用者が少なく、複数の移動サービスとの重複がみられる > 深浦線は鯉ヶ沢町内での利用や深浦町～鯉ヶ沢町間の移動に利用されているが、朝の通学などの時間帯を除き、深浦町内での利用者が少ない状況にある。 鯉ヶ沢町及び深浦町において、複数の移動サービスとの経路の重複がみられることが、深浦線の利用が少ない要因の一つとして考えられる。</p>		
■ 路線の再編(次頁の運行ルート図を参照)			
再編の内容	<p>< 域内交通(深浦町内線)との統合による需要の集約 > 深浦線と経路が重複する深浦町内線との統合により需要集約を図るとともに、ダイヤの見直しにより運行の効率化を図る。</p>		
実施時期(予定)	2019年4月		
■ 路線の再編前後の比較			
項目	再編後	再編前	
起点・終点	鯉ヶ沢営業所・弁天	鯉ヶ沢営業所・弁天	
主たる経由地	鯉ヶ沢駅前・赤石駅前・北金ヶ沢・千畳敷・深浦駅前	鯉ヶ沢駅前・赤石駅前・北金ヶ沢・千畳敷・深浦駅前	
運行日	毎日	毎日	
運行距離	42.2	42.2	
使用車両	中型バス車両	中型バス車両	
事業主体	弘南バス(株)	弘南バス(株)	
事業形態	一般乗合旅客運送(定時定路線)	一般乗合旅客運送(定時定路線)	
■ 年間利用者数(単位:人)			
項目	再編後の想定される効果	現状(2017.10～2018.9)	
年間利用者数	35,387	33,146	
■ 輸送量等			
項目	再編後の想定される効果	現状(2017.10～2018.9)	
平均乗車密度	4.1	3.9	
運行回数	3.9	3.9	
輸送量	16.0	15.2	
■ 補助金額(単位:千円)			
項目	再編後の想定される効果	現状(2017.10～2018.9)	
国	6,467	6,467	
県	6,467	6,467	
市町村	4,688	4,837	
総額	17,622	17,771	
■ 引き続き検討が必要な事項			
系統の分離	深浦線と経路が重複する温泉施設ゆとりバス(深浦町)廃止後の町内交通のあり方を踏まえつつ、深浦線の系統の分離(弁天～役場前間の短縮、弁天～大戸瀬駅間の経路を短縮など)を検討することが必要。(主体:深浦町、弘南バス(株)、鯉ヶ沢町)		
域内交通との適切な役割分担	深浦線と経路が重複するあじバス(鯉ヶ沢町)について、運行する時間帯も重複する場合には、利用者の移動実態などを踏まえ、あじバスのダイヤの見直しを検討することが必要。(主体:鯉ヶ沢町、弘南バス(株))		
域内交通の需要集約	深浦町内を運行する小・中学校スクールバス、患者輸送バスについて、深浦線の活用を踏まえた運行体系(経路・ダイヤ・便数など)の見直しにより、深浦線への需要集約を検討することが必要。(主体:深浦町、弘南バス(株))		
深浦線の見直しに伴う周知・広報	域内交通(深浦町内線)との統合による需要の集約に伴う、深浦線のダイヤ見直しについて周知・広報を行うことが必要。(主体:深浦町、弘南バス(株)、鯉ヶ沢町)		
主要な目的地への乗り入れ	深浦線の利便性の向上に向けて、深浦町内の主要な目的地(深浦診療所など)への乗り入れについて、運行経路の延伸による運行経費の増加や運行収入の見込みなどを検討しつつ検討を進めることが必要。(主体:深浦町、弘南バス(株))		

路線名：十和田市線【岩手県北自動車(株)】

■路線の概要

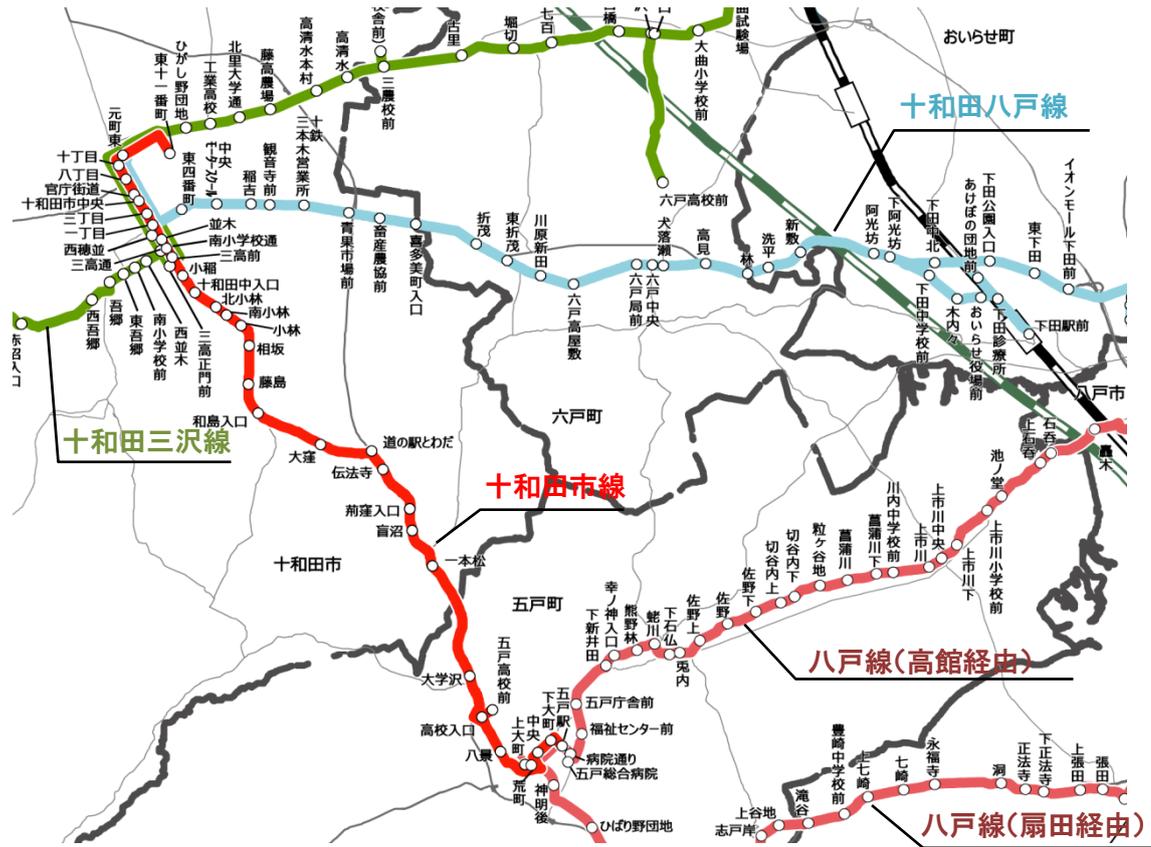
●運行概要							
起点・終点	五戸駅前・東十一番町	主たる経由地	十和田市中央、三高前、五戸高校前				
沿線市町村	十和田市、五戸町						
運行日・運行本数(往復平均)	毎日・月～金：6本、土日：5本						
関連する公共交通	十和田三沢線(十和田観光電鉄(株))、十和田八戸線(十和田観光電鉄(株))、八戸線(岩手県北自動車(株))、金ヶ沢線(岩手県北自動車(株))、十和田市コミュニティバス(十和田市)、五戸町コミュニティバス(五戸町)						
●輸送実績							
年度	実績値			補助金額(千円)			
	平均乗車密度	運行回数	輸送量	国	県	市町村	総額
H27	2.7	7.2	19.4	2,777.9	2,777.9	2,555.0	8,110.8
H28	2.9	6.4	18.5	1,764.9	1,764.9	4,000.0	7,529.8
H29	3.3	5.6	18.4	2,142.2	2,142.2	3,713.0	7,997.4



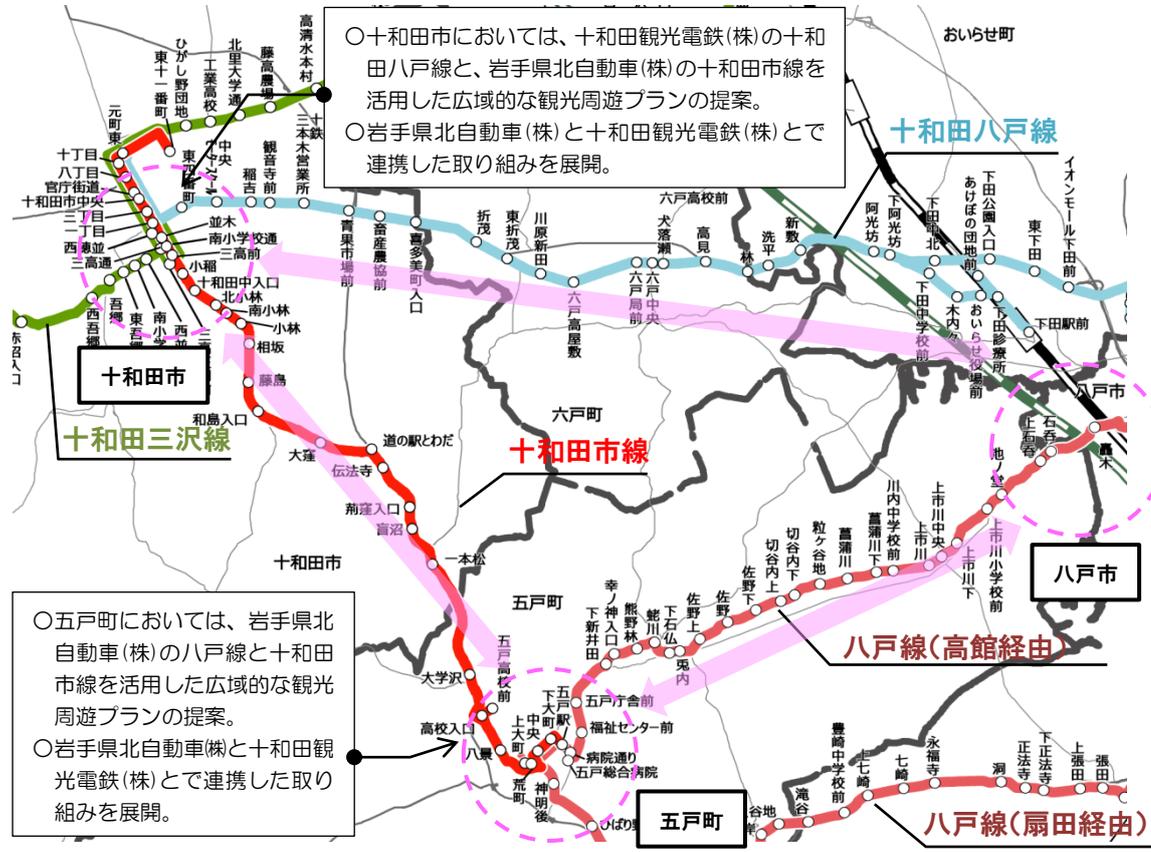
■ 路線の課題			
路線名	十和田市線	事業者名	岩手県北自動車(株)
関係市町村	十和田市、五戸町		
路線の課題	<p><朝夕の通学時間を除き日中の利用者が少なく、集約可能な需要もみられない> 十和田市線は主に十和田市～五戸町間の通学などに利用されており、朝夕の時間帯などは一定の利用者がみられるが、その他の時間帯は利用者が少ない状況にある。 十和田市・五戸町の中心部を除き、利用者が見込まれる地域が少なく、また十和田市線に近接して運行する公共交通の利用者など集約可能な需要もみられない状況にある。</p>		
■ 路線の再編(次頁の運行ルート図を参照)			
再編の内容	<p><利用促進による新たな利用者の獲得(段階的な再編の実施)> 十和田観光電鉄(株)の十和田八戸線と連携し、広域的な観光周遊に向けた需要の取り込みにより、新たな利用者の獲得を図る。</p>		
実施時期(予定)	2020年4月		
■ 路線の再編前後の比較			
項目	再編後	再編前	
起点・終点	五戸駅前・東十一番町	五戸駅前・東十一番町	
主たる経由地	十和田市中央・三高前・五戸高校前	十和田市中央・三高前・五戸高校前	
運行日	毎日	毎日	
運行距離	17.2km	17.2km	
使用車両	中型バス車両	中型バス車両	
事業主体	岩手県北自動車(株)	岩手県北自動車(株)	
事業形態	一般乗合旅客運送(定時定路線)	一般乗合旅客運送(定時定路線)	
■ 年間利用者数(単位:人)			
項目	再編後の想定される効果	現状(2017.10～2018.9)	
年間利用者数	36,014	35,877	
■ 輸送量等			
項目	再編後の想定される効果	現状(2017.10～2018.9)	
平均乗車密度	3.3	3.1	
運行回数	5.6	5.6	
輸送量	18.6	17.3	
■ 補助金額(単位:千円)			
項目	再編後の想定される効果	現状(2017.10～2018.9)	
国	1,581	1,707	
県	1,581	1,707	
市町村	2,740	2,957	
総額	5,902	6,371	
■ 引き続き検討が必要な事項			
バスパックの検討組織の設置	<p>岩手県北自動車(株)・十和田観光電鉄(株)・十和田市・五戸町での検討組織を設置し、十和田八戸線と連携した広域的な観光周遊バスパックの実施に向けて、関連主体(協力店舗等)との調整や運用方法の検討、周知・広報等を行うことが必要。(主体:岩手県北自動車(株)、十和田市、五戸町、十和田観光電鉄(株))</p>		
経路の短縮による効率化	<p>十和田市のバスターミナルの整備(事業期間:2019～2021年度)に合わせて、2022年度の実施(予定)に向けて、十和田市線の経路短縮及び十和田三沢線との接続性の向上のため、両路線間のダイヤ調整・設定を検討することが必要。(主体:岩手県北自動車(株)、十和田観光電鉄(株)、十和田市、五戸町)</p>		
高校の統廃合に伴う対応	<p>五戸高校が2020年度に生徒の募集停止を予定していることから、2022年度の実施(予定)に向けて、十和田工業高校、三本木農業高校、三本木高校への通学利便性の維持のため、2020年度からの朝夕の時間帯の東十一番町への延伸(みなし系統)を検討することが必要。(主体:岩手県北自動車(株)、十和田観光電鉄(株)、十和田市、五戸町)</p>		
十和田市線と金ヶ沢線の接続性の向上	<p>八戸圏域地域公共交通再編実施計画の再編対象路線である金ヶ沢線について、2020年度の実施(予定)に向けて、新郷村から十和田市内高校への通学が想定される場合、十和田市線との接続、ダイヤの見直しを検討することが必要。(主体:岩手県北自動車(株)、八戸圏域地域公共交通活性化協議会構成市町村)</p>		
域内交通の接続性の向上	<p>十和田市が2019年度に実施予定のコミュニティバス(実証実験)においては、五戸町から十和田市内の主要拠点への移動の利便性向上のため、「十和田市中央」に接続拠点を設定した上で、ダイヤの設定を検討することが必要。(主体:十和田市)</p>		
利用促進に向けた周知・広報	<p>広域的な観光周遊バスパックを造成した際には、その周知・広報を行うとともに、中学生(次期高校生)に対して十和田市線を活用した十和田市内高校への通学方法などの周知・広報を行うことが必要。(主体:岩手県北自動車(株)、十和田市、五戸町、十和田観光電鉄(株))</p>		

■運行ルート図(十和田市線)

旧



新



○十和田市においては、十和田観光電鉄(株)の十和田八戸線と、岩手県北自動車(株)の十和田市線を活用した広域的な観光周遊プランの提案。
 ○岩手県北自動車(株)と十和田観光電鉄(株)とで連携した取り組みを展開。

○五戸町においては、岩手県北自動車(株)の八戸線と十和田市線を活用した広域的な観光周遊プランの提案。
 ○岩手県北自動車(株)と十和田観光電鉄(株)とで連携した取り組みを展開。